

会津若松市水道事業ビジョンの改定について（案）

1. 目的と背景

水道ビジョンは、安全・安心な水供給を将来にわたって持続可能にするため、水道事業の将来の事業運営の道筋を示す事業の根幹となすものです。

近年、施設の老朽化の進行、人口減少に伴う水需要の変化や担い手不足、そして気候変動や災害リスク、環境負荷への対応など、さまざまな新しい課題に直面しています。一方で、ICT活用やDXによる水道事業運営の効率化・高度化や脱炭素といったGXの可能性も広がりつつあります。現在の水道事業ビジョン（以下、「現行ビジョン」という。）は、平成28年に策定しましたが、令和7年度末をもって計画期間の終期を迎えます。その間、社会情勢の変化により前述のような課題が生じており、それらの課題を克服し、人口減少という状況下の、新しい時代に即した新しい水道事業の将来の姿を水道利用者に示す必要があることから、現行ビジョンを改定するものです。

2. 現行ビジョンにおける主要施策の取組状況と現状課題

（1）主要施策の取組状況

基本理念	基本方針	施策目標	主要施策	着手状況 完了◎ 取組中○ 未着手×
安全な水の安定供給で ぐらしの未来を支え続ける水道 ～蛇口から 安心とどけ 未来まで～				
1. 水道水の品質確保に配慮した安全な水道				
1) 水道水源の確保と環境保護			① 水利権の確保	○
			② 水源の保全対策	○
2) 水質管理の徹底			③ 水質検査の充実	◎
			④ 水質管理の強化	○
			⑤ 水安全計画の拡充	◎
3) 給水サービスの向上			⑥ おいしい水の供給	○
			⑦ 直結給水の拡充	○
			⑧ 貯水槽水道の衛生管理	○
4) 開かれた水道行政の実現			⑨ 情報公開の推進	◎
			⑩ 水道事業のPR	◎

2. 確実な安定給水のための強靱な水道			
1) 計画的な施設整備の実施	⑪ 水道施設整備の総合計画の策定		◎
	⑫ 浄水場の整備		○
	⑬ 配水池、ポンプ施設の整備		○
	⑭ 導・送・配水管の整備		○
	⑮ 鉛給水管の解消		○
	⑯ 漏水対策		○
2) 水道事業の災害対策	⑰ 基幹施設の耐震化		○
	⑱ バックアップ体制の構築		○
	⑲ 応急給水体制の構築		○
	⑳ 復旧体制の構築		◎
	㉑ 事業継続計画（BCP＝Business Continuity Plan）の策定		○
3. 市民の暮らしを支える持続可能な水道			
1) 経営の健全化	㉒ 適正な水道料金への見直し		○
	㉓ アセットマネジメントの導入		◎
	㉔ 上下水道事業経営審議会の開催		◎
	㉕ 広域化への対応		○
	㉖ 水道加入の促進		◎
	㉗ 集合住宅における水道メーターの公有化の促進		○
2) 経費の削減	㉘ 組織の簡素合理化と人件費の抑制		◎
	㉙ 事務事業の見直し		○
	㉚ 民間委託の推進		◎
	㉛ 省資源・省エネルギーの推進		○
	㉜ 工事費の縮減		◎
3) 職員の人材育成	㉝ 職員研修の継続実施		◎
	㉞ 「水道」組織文化の醸成		○
	㉟ 適切な人事管理の運用		○
4) 情報システムの拡充	㊱ GIS 及び電子ファイリングシステムの導入		◎
	㊲ 施設台帳システムの構築及びデータ一元化		○

(2) 現状課題

	課 題
安 全	必要水量の確保と水源環境の保全対策
	水質管理の徹底
	安全な給水サービスの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全な水道水の安定供給 ・ 貯水槽水道の衛生管理、直結給水の拡充
	水道事業に関する情報発信の拡充

強 靱	計画的な施設更新・耐震化の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・水道施設総合整備・更新計画の拡充 ・老朽化施設の計画的な更新 ・効率的な更新、耐震化 ・鉛給水管更新の推進
	ハード面（水道施設）の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・配水ブロック化の推進 ・水道施設の耐震化、応急給水拠点の拡充
	ソフト面（管理・連携体制）の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・バックアップ、復旧体制の強化 ・行動指針の整備及び定期的な訓練実施
	デジタル技術導入による水道DXの推進
持 続	経営の健全化 <ul style="list-style-type: none"> ・アセットマネジメントに基づく長期的な財政計画 ・適正な水道料金の見直しの検討 ・水道加入へ広報活動
	職員の技術力確保、人材育成の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・職員研修、自己研鑽、技術継承の強化 ・デジタル活用での組織力持続
	公民連携、広域連携の強化・推進
	手続きサービスの利便性向上

3. 新ビジョンの内容

(1) 改定における基本的な考え方

給水人口減少に伴う給水量等の推計をもとに、市総合計画を踏まえつつ、現行ビジョンの基本理念及び、基本方針を踏襲したビジョンに改定します（方針は国の新水道ビジョンと同様）。

○基本理念 「安全な水の安定供給で 暮らしの未来を支え続ける水道」

○基本方針

「安全：水道水の品質確保に配慮した安全な水道」

「強靱：確実な安定給水のための強靱な水道」

「持続：市民の暮らしを支える持続可能な水道」

4. 新ビジョン本編の内容

(1) 会津若松市水道事業ビジョン2026の概要

第1章 会津若松市水道事業ビジョンの改定に当たって

改定の趣旨

第2章 一般概況

市の概要 等

第3章 水道事業の現状と課題

現行ビジョンにおける主要施策の進捗状況、課題の抽出 等

第4章 水需給の見通し

人口、水量の将来見通し

第5章 会津若松市水道事業の目指すべき方向

基本理念（将来像）、施策目標の設定、施策の体系

第6章 目標達成のための実現方策

3つの施策目標に対する実現方策

第7章 施策目標に対する取り組み

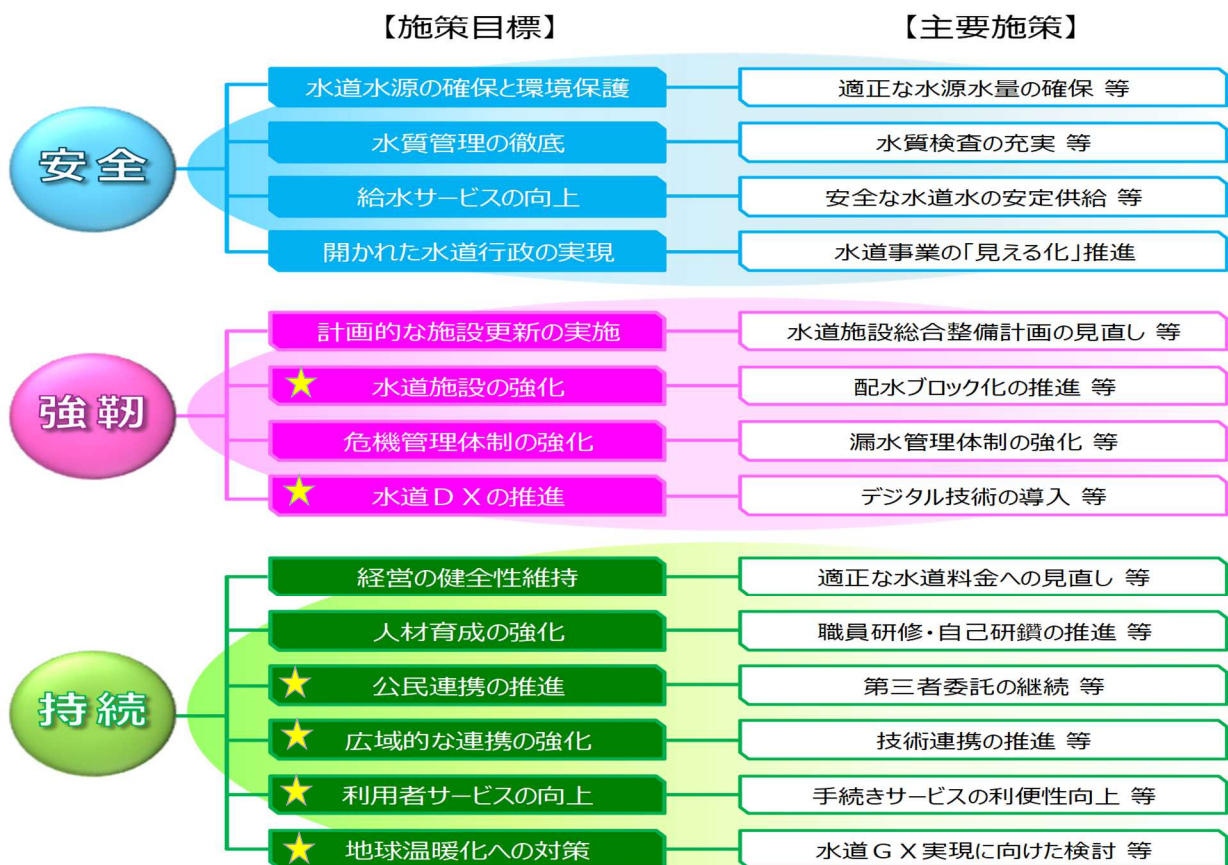
3つの施策目標に対する計画期間中の取組内容、フォローアップ

付表・資料

水道用語解説 等

(2) 施策体系

「会津若松市水道事業ビジョン2026」 第5章中「施策体系概要」



★：変更点

(3) 新たな視点の取組

現状の課題に応じて、新たな施策目標による取組を推進していきます。

・水道施設の強化

水圧の均等化を図るための配水及び維持管理の効率化や漏水防止対策、非常時対応力に利点がある配水ブロック化の推進や主要施設や基幹管路の水道施設の耐震化を図ります。

・水道DXの推進

業務の効率化・迅速化及び業務の生産性の向上を図るために IT 化を推進し、ICT を活用しながら、国の上下水道 DX 施策に基づく基盤強化を図ります。

・公民連携の推進

平成 22 年度から導入している浄水場運転管理業務などの第三者委託を継続するとともに、上下水道一体での公民連携について検討します。

・広域的な連携の強化

水道事業の安定運営と効率化を図るため、周辺事業体と技術連携の推進や広域連携の研究等を進めていきます。

・利用者サービスの向上

スマートフォン等で各種手続きが簡単に行えるような機能の充実や、水道料金や使用水量をいつでも確認できるようなポータルサイトの構築を図ります。また、水道事業の重要性について、定期的にかつ丁寧に情報発信し、水道事業に理解をいただきながら事業を推進していきます。

・地球温暖化への対策

地球温暖化対策として脱炭素化を目指すための重要施策である、水道GXを推進させるとともに、温室効果ガスの排出削減を目指すため、太陽光発電の活用や今後整備を行う施設については高効率型の設備を導入し、省エネ・再エネを推進します。

(4) 計画期間

本市水道事業の目指すべき方向性を示し、現行の基本理念を踏襲して改定することから、令和8年度から令和17年度までの10年間の計画期間とします。

なお、急激な物価高騰、自然環境などの変化や法改正への対応など、計画期間中に社会情勢や環境変化などに大幅な変動が生じた場合は、適宜ビジョンを改定します。

4. スケジュール

令和7年	1月10日	局内職員勉強会（キックオフ）
	4月～	局内水道ビジョン改定ワーキングチームを随時開催し素案作成
	11月17日	局内合意
	11月17日	関係課長会議（企画調整課、健康増進課、建設部）
	11月20日	副部長会議
	11月21日	上下水道事業経営審議会
	11月25日	庁議
	12月	建設委員会協議会
令和8年	1月上旬	パブリックコメントの実施（期間：1ヶ月）
	3月	建設委員会協議会にて最終報告（予定）
		水道事業ビジョン2026の公表